

日本保育者養成教育学会 ニュースレター ■第4号■

2021年6月14日発行 編集・発行 日本保育者養成教育学会

170-0002 東京都豊島区巣鴨1丁目24-1-4F(株)ガリレオ 学会業務情報化センター内

日本保育者養成教育学会第5回研究大会を終えて

第5回研究大会実行委員長 岡 健

第5回大会においては、開会式のまさに直前にシステムがダウンするという状況になり、会員の皆様には本当にご不便をおかけし、大変申し訳ありませんでした。

復旧後は、シンポジウム、口頭発表と何とか無事に終わりましたが、シンポジストにご登壇くださった先生方、座長をお引き受けいただいた先生方、ご発表された先生方、本当にありがとうございました。改めて感謝申し上げます。

さて、「『ポスト・コロナ』時代の保育者養成教育をどう描くのか～コロナ禍をきっかけに顕在化した保育者養成教育の在り方を見つめて」と題した今回の学会でしたが、我が国の現状を省みれば、未だコロナの終結を見通すには程遠い状況と言わざるを得ない日々が続いています。大都市部はもとより、地方都市においてさえ、保育現場における当事者の感染に加え、子どもや保育者たちの濃厚接触者としての発現はもはや珍しく稀なものではなくなっていると実感しています。それでも、、保育の現場は開かれ続けていますし、今年もまた、様々な学びに制約を受けざるを得ない（得なかった）学生諸氏は卒業、就職にむけて歩みを進めているのです。

「『ポスト・コロナ』時代の保育者養成教育をどう描くのか」。そのことはこのテーマを掲げた時以上に、今後私たちに大きく、重くのしかかってくる問題だと感じています。その問題に向き合うために、コロナ禍の保育現場の現況について、また、2021年3月に卒業しコロナ禍の保育現場に就職した卒業生たちの現況について、さらには今、養成校において学び、あるいは来年の3月に向けて免許・資格を取得し就職しようとしている学生の現況について、私たちは明らかにし、知り、共有していただくの重要性をより一層感じています。

次年度の学会がどのような状況で開催されるか未だ不透明ではありますが、養成に携わる者として、今回掲げたテーマを改めて考え続けていきたいと思っております。皆様方のご研究に期待し、そこから沢山のことを学ばせていただければと思っております。

第5回大会へのご協力、本当にありがとうございました。

リレー討論

～コロナ禍で、岐路に立った養成教育～

日本保育者養成教育学会広報委員 爾寛明

新型コロナが流行し、その性質がわからないまま感染拡大が行ってしまい、養成校のみならず行政においても、保育者養成がどう対応しなければならないのかが、明確な答えを見つけないままです。

多くの養成校は、リモート授業へとシフトして、授業自体は行えるようになりましたが、実技や実習など、養成校での授業をどうするのかという課題が山積しました。

養成校においては、その地域の事情や感染状況の違いにより、全国一律の対応をすることは、難しいですが、今回のニューズレターでは、地域における様々な対応を知ることによって、一考になればと考え投稿を募集し、2点の応募がありました。

新型コロナウイルス感染拡大防止措置の中での実習をめぐる対応について

宇部フロンティア大学 伊藤 一統

実習ということは、そもそも「実習」であるから意味があるものですので、可能な限り「実習」の形で実施し、学内の演習等で代替するということはない方針で臨みました。幸いにして、感染者数の報告の少ない地方ということで、実習の実施自体については、春から夏前にかけて予定されていたものについて当初予定からの変更を行わざるをえなかったものの、それ以外についてはさほど大きな影響はなく、部分的な調整ですませることができました。

種別でいうと、いわゆる施設実習についてが最も対応を求められたといえます。障害者施設などにおいて、基礎疾患を持っている利用者への感染拡大防止のためなどで実習生の受け入れを拒むケースがありました。施設実習に関するこうした事態はある程度予測もされたことから、事前に調整を試みました(本県では、施設実習に際して、養成校間で事前に調整を行って受け入れ先・受け入れ数を割り振っている)が、十分といえる動きにはなりません。このことは今後課題を残すこととなったように思います。このほか、個別の事例としては、クラスターが発生したことで突然特定エリアでの受け入れを拒否されたり、また、受け入れ基準が厳密に適用された結果、実習開始 1 週間前にアルバイトをしていたことを理由に初日で実習中止

を申し渡されたケースなどがありました(スーパーのレジをしていたことが不特定多数の者との接触をしていたとされ、実習に備えて1週間前からアルバイトをひかえていたものの、2週間未満であったことで問題視された)。

実習自体については、このようにイレギュラー対応はそれほど多くではありませんでしたが、いずこも同じことだと思いますが、健康管理に関する措置等、付随する事項、文書等の増加に対応せねばなりません。ですが、こうした実習そのものへの対応以上に困難を極め、また、いまだに十分と思われないのが実習指導に関するものです。講義に関しては、令和2年度の上半期については、ご多分に漏れず、対面を避けて、遠隔での指導を余儀なくされました。1年生においては、入学以来、面と向かって顔をあわせる機会がほとんどないままでしたし、2年生も本格的な学外実習を終えた後に全く対面の機会がないという状態でした。実習指導ということでは、実習指導の科目の中での指導以外に、様々な場面で、学生たちへの声掛けや応談によって隙間や周辺を埋めることを常としていますし、そうでなくても、入学前までの成熟度が高くない学生諸氏の社会化の手だてとして、講義以外の場面でのコミュニケーションの重要性を感じているところ。これが、壊滅状態であったということが、実習の実施についても言葉に表せない困難さを伴うものとなりました。

本学では、新型コロナウイルス感染対策として、クラウドでのドキュメント共有システムによるオンデマンド講義の実施を指示されました。これに対して、本学科は独自にオンライン・ミーティングシステムを利用したオンライン講義を併用することとしました。少しでも双方向性を持たせて、コミュニケーションを伴う指導のカたちをつくることを期したものでした。また、状況を見て、実習指導を含む演習科目の一部を極力対面で行うように努めました。これは、「十分と思われない」と述べたように、少しはマシという程度のことであり、システムへの不慣れや機器の不備もあって、これで補完できたとは到底思えません。日常が戻る日を待ちつつ、卒業後の補完を含め、保育の質保証のために養成校ができることを考えねばならないように思います。

激動の年における保育者養成を経験して今思うこと

聖セシリア女子短期大学 佐藤 那美

2020年が新型コロナウイルス(COVID-19)により世界が一変することになるとは、誰一人として予想もしていなかったのではないのでしょうか。多くの養成校において実際の養成教育に大きな影響があったらと思います。分野の特性上養成教育の過程で、学生が受講する授業は、手書きをしたり、弾いたり、歌ったり、造ったり、実演したり、複数人で話し合ったり、

子どもと実際に関わったりする事があります。新型コロナウイルスの影響によって先述した多くの内容を含む行動に制限がかりました。この制限の中で養成校教員として、保育者を育て卒業に導いていくといった大変な難題を突きつけられたように感じました。

神奈川県に位置する単科の小さな短期大学である本学の2020年の様子はどうか、一つの例としてご報告したいと思います。すべての養成校にとっての2020年における気配りの一つは、実習だったと思います。結果的に本学は、実習と演習を並行実施する形を選択しました。この決定までには多くの議論の中で紆余曲折がありました。一斉中止のうえ演習に切り替えた学校や、予定通り実習実施した学校、本学のように実習と演習の両方を行った学校と、全国の養成校においても判断のあり方は千差万別でした。2020年に限ってはどれを選択することが正解なのか判断することが難しい事態だったため、ここで示す本学の判断が、唯一の正解ではないことを予めお伝えさせていただきます。

本学の2020年実習期間を簡単に説明すると、6月に幼稚園教育実習が3週間、8月に保育実習Ⅱと保育実習Ⅲが各2週間ずつとなっています(本学は2020年度をもって閉学が決定しているため1年次生は在籍がない)。厚生労働省や文部科学省からの通知を確認しながら学内で検討した結果、保育実習についてはそのまま据え置き、6月の幼稚園教育実習を期間短縮をした形で10月へ移行することとなりました。実習園からの反応は様々でしたが、10月における受け入れが厳しい場合、8月の保育実習と交換するなど微調整を行いながら進めていき、すべての実習園の期間移行することができたのは、とても幸運でした。

そのような中4月になり各大学の基本方針が示され始め、本学でもようやく授業方針が示されました。本学の方針としては当面は遠隔授業(課題設定、オンデマンド配信)による授業実施、体育や音楽等対面でないと授業実施が難しい科目は後期へ移行するということになりました。2020年に限ってはある程度柔軟な時間割(時間数も含め)が暗黙の了解となっていた部分もありましたので、学内の教務にかかわる教員が他大学の教員と情報交換をしながらその都度出来る形を模索していったように思います。また当面の間対面授業を行わない方針にしましたが、恥ずかしながら本学ではLMS(学習管理システム: Learning Management System)の存在こそあれ、出席管理や成績登録、学生へメッセージを送る(何故か学生からの返信は不可の設定)以外は、ほとんどその機能を使用しておらず、使用可能な機能を検討しても「課題を設定する」「課題を回収する」くらいだろうとのことでした。4月の時点でテレビ会議システムなどを導入したオンライン授業を、先んじて実施している大学があることも承知していましたが、本学はプライバシーの問題やセキュリティの問題から、慎重な態度を崩しませんでした。しかし既存のLMSと並行使用できるシステムとして、ようやく9月にGoogleアカウントを学生一人ひとりに付与し、授業の中でGoogle classroom(Googleが提供している

LMS 機能)の使用が可能となりました。このことによって Google Meet などのテレビ会議システムを使用することが可能となり、授業の可能性が格段に広がりました。実習担当をしている私としては、この学生への Google のアカウント付与が後に大きなメリットとなったのは言うまでもありません。

学校の方針に従い実習事前指導は 4 月から課題設定やオンデマンド型により遠隔授業を進めていました。本報告は特に実習と並行して行った学内演習についての報告に焦点化した方が皆様にとって有益な内容になると考え、実習事前指導部分についての詳細は特に取り上げることはしません。2020 年の実習事前指導の苦労や困難さは、すべての遠隔授業を行っている養成校の先生方がお持ちであろう、感想や思いと同じだと思います。

本学では予定された実習期間は、園から断られた学生や、実習直前に熱を伴う体調不良が発生した学生に対して、実習の裏で学内演習という方法により資格取得を目指していくこととなり、上半期に厚生労働省や文部科学省から示された「演習又は学内演習等における実習実施」に関する事項や「実習を大学等の授業として行うこと」に関する事項などの通知を基に学内演習を行っていくことになったのです。

私は教育実習担当であったため、実際に実施した幼稚園教育実習の学内演習プログラムの概要を表 1 に示しておきます。学生同士の意見交換をどのように保障していくのかについて、Google classroom には Google 独自のサービスであるスプレッドシートやドキュメントシート等、複数の学生が同時に一つのファイルを編集出来る機能があり、これはとても役立ちました。Google classroom へ動画や事例のエピソードをアップロードしておき、学生に見てもらいます。その後、演習参加者全員分のコメント欄をあらかじめ作成しておいたスプレッドシートを課題として設定しておき、動画やエピソードの文章を見終えた学生からファイルに入り、コメントを記入していきます。教員もそのスプレッドシートをリアルタイムで見ることが出来るので、参加者によってどんどんコメントが書き込まれていく様子を見ることができ、一人で画面を見つめているにもかかわらず、今ここに学生たちと一緒にいるような、そんな不思議な感覚になったのを覚えています。

また、実習に替わる演習であるためレポートを行うだけで何十時間を過ごさせるわけにはいきません。学生自身が手を動かして何かを造ったり、実践したり、活動する内容を含めながらプログラムを作成しました。特に学生が楽しく実施できた自然観察活動のプログラムでは、学生の自宅周辺にある自然物(厳密には制限せず建物や公園も可とした)をテーマにビンゴを作成してもらいました。「まるいもの」「フワフワしているもの」「動いているもの」「赤色のもの」「花の匂いを嗅ぐ」などを学生たちは各自で決め、指定された時限に外に出かけて実施してもらいました。学生は外出時にカメラ付き携帯電話を持参し、外で見つけたビンゴに該当す

る写真を撮影し、外からそのまま Google classroom へ画像を提出していきます。私は自宅から Google classroom の提出状況を確認していると、時間が経過するにつれ花や公園、虫や葉っぱなどの写真が学生から提出されてくるごとにとても楽しい気持ちになりました。

実習と同時並行した学内演習はとても大変なものでした。プログラムの考案なども多くは一人で行いましたが、専門外のプログラム考案には音楽や体育の専門の教員たちと連携をしたり、保育現場の保育者に依頼を行い、現場の様子を学生たちにお話いただけただことで、ある程度中身の濃いプログラムを作成することができたように思います。オンライン講演をくださった現場保育者からは、5月の緊急事態宣言下においても保育所は保護者の業種を選定しながらも、子どもの受け入れのために開所していた事実をお話くださり、「コロナに感染するのが怖い」と言っていた学生たちも、保育所の重要な社会的意義に触れ、考えを改めた様子もありました。過大評価とは思いますが、遠隔ながらも学内演習は一定の効果と今後の道筋を得られた部分はあったように思います。2020年ほど協働の大切さを感じたことはありませんでした。快くお力を貸してくださった同僚の先生や保育現場の先生には本当に感謝しかありません。

実習においても例年にはない新型コロナウイルス感染予防の対策として、学生に示す連絡フローを再検討したり、教員間における緊急時の対応法の共有、巡回方法の変更など色々対策を考えた経緯もあり、お伝えたいことは山程ありますが、ここでは紙面の関係上で割愛させていただきます。

2020年新型コロナウイルス感染症が拡大し、激動の中における保育者養成を経て今思うことは、遠隔による学内演習を行ったことで業務の大変さは例年以上にあり、改めて実習から学べる経験の圧倒的な大きさを再確認したと共に、一方で遠隔授業による今後の養成教育の新たな可能性も少し見出だせたように感じます。実習は他に代えがたい経験であるため、実習自体を実施しないというあり方は不可能ですが、保育者養成教育に係る様々な科目において、2020年の経験をきっかけに、多くの養成校において工夫された方法やあり方が生み出されていくようにも思いました。

一刻も早く新型コロナウイルスの猛威が落ち着き、日常を取り戻せる日が来ることを願いつつ、今回の学内演習ははじめ2020年に多くの経験から得た学びと課題を整理し、私個人としても、これからの養成教育のあり方について、多くの養成校の先生方と引き続き語り合っていたらと思います。

表1 本学が実施した幼稚園教育実習の学内演習プログラムの概要

	プログラム	内容		実施方法
(1)	オリエンテーション	学内演習の時間数やルールの確認、Googleclassroomの使用法に慣れてもらう事を目的とする時間とした。	全2回	オンライン (Google Meet)
(2)	エピソード事例検討	DVD映像の視聴及び、エピソード文章を読み、考えたことを参加者間でシェア、最後に自身の考えをまとめる。 (※DVD映像は製作会社へ動画使用の許可を得たうえで配信を行った。)	全4回	Googleclassroom
(3)	紙芝居作成	新型コロナウイルス予防のための指導として子どもたちと出来ることを考え、子どもにも理解しやすいよう紙芝居を作成する。プログラムの最後に、作成した紙芝居を実演している様子を動画に撮影し、提出することを求めた。最後作成と実践を終えてのレポートを作成。	全11回	Googleclassroom
(4)	指導案作成と発表	実習において行う予定であった責任実習の内容について、教員から返却された添削を受けて、清書をする課題。また、Meetによる責任実習の発表会に向けて各自発表の準備をし、発表会では「ねらい」「活動内容」「保育者の配慮事項」等を実際の道具や材料を示しながら発表する機会を設けた。その後仲間からもらったコメントを受け、個人の振り返りを行うという課題を行った。	全5回	・オンライン (Google Meet) ・既存の恒大教務システムへ設定
(5)	保育現場における音楽指導について	音楽担当教員によりプログラムを考案頂いた。子どもたちに対して歌の指導を行うことを想定し、曲の選定や指導案作成を課題とした。自宅にてピアノの弾き歌いをしながら、子どもに向かって指導している設定で実演している様子を動画にて録画し、提出を求めた。	全2回	Googleclassroom
(6)	保育現場における身体活動の指導について	体育担当教員によりプログラムを考案頂いた。課題曲として「じゅげむ」の音楽に合わせて、各自身体の動きを考案する課題。子どもの前に立っている設定とし、指導している様子を動画にて録画し、提出を求めた。 (※音源の使用についても関係企業へ確認を行ったうえで使用した。)	全2回	Googleclassroom
(7)	簡単な保育教材作り	民間団体がオンラインにより開催している「芸術教育学校」の中の保育教材作成に関する動画を使用し、簡単な保育教材を作る課題。絵やお話を自身で考えオリジナルの教材を作るよう指導。子どもの前で実演する設定で練習し、動画を撮影したうえで提出するよう求めた。 (※動画使用については、当団体へ直接確認上使用している。)	全2回	団体HPのURL貼り付けにより提示
(8)	自然観察活動	民間団体がオンラインにより開催している「芸術教育学校」の中の自然観察に関する動画を使用し、「おさんぽビンゴ」作成を課題とした。作成したビンゴを実際に出て学生が行い、見つけたビンゴの内容を写真に撮影し、提出するよう求めた。子どもたちと実施する際の留意点や事前準備等もレポートとして報告を求めた。 (※動画使用については、当団体へ直接確認上使用している)	全2回	団体HPのURL貼り付けにより提示
(9)	各種ワーク	「幼小接続について」「家庭との連携について」「地域連携について」「特別な配慮が必要な子どもへの対応について」「保育の安全と事故防止について」「幼稚園教育要領について」など実習のねらいに基づいたレポートをいくつか無し提出を求めた。WEBや文献等により調べたことをまとめる内容と、自身の考えを書く内容などを混ぜつつ設問を作成。	全6回	既存の恒大教務システムへ設定
(10)	現場保育者による講演	保育現場において役立つ講演や講座を行った。1回目は「保育現場における新型コロナウイルス対応の実例」をテーマとした講演会とそれに対する振り返りレポートを課題とした。2回目は「保育現場で役立つ手遊びや歌遊び」をテーマに講座を行った。 ※保育所の演習と共通した内容として、1回目では保育士をお招きした。	全3回	オンライン (Google Meet)
(11)	まとめレポート	すべての演習を終えて振り返りのレポートを課題とした。	1回	既存の恒大教務システムへ設定
	時間外活動	毎日の日誌記入や、責任実習発表のための準備、教材研究や教材購入のための時間は、実習と同様に時間外に行うこととした。		

日本保育者養成教育学会 第 4 回研究大会報告

第4回研究大会 実行委員長 大庭三枝(福山市立大学)

新型コロナウイルス(COVID-19)は世界的な感染拡大を続け、2020年はこれまでに経験したことのない時代の幕開けとなりました。2020年3月1日(日)広島県福山市の福山市立大学にて予定されていた日本保育者養成教育学会第4回研究大会(大会テーマ「持続可能な保育者養成としての教育と研修」)の実施については何度も検討した結果、参集を中止し研究発表認定委員会による抄録の審査を経た研究発表認定という形式をとりました。保育者養成に関する今日的な課題を対面で議論する機会を失っただけでなく、多くの方々に直前の予定変更等ご迷惑をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

研究発表につきましては、口頭41件、ポスター131件が認定されました。また、事前申し込みされた344人(会員327人、非会員17人)の方々には大変申し訳ないこととなりましたが、広島県・岡山県中心に当日参加を予定されていた多くの保育関係者から、参集中止を残念がる声が寄せられ、今大会への興味関心の高さを痛感いたしました。

大会に向けては、第3回大会を見事に運営された東北福祉大学の皆様より丁寧な引継ぎをいただき、実行委員一同力を合わせ、福山市や市民・学生の協力も得ながら、直前まで最大限の配慮のもと準備態勢を整えてきました。しかし、感染状況は悪化の一途をたどり、参加される方々の健康と戻られてからの周囲や保育現場の安全を第一に優先した、苦渋の決断に至ることとなりました。大会運営に関する大幅な変更之际していただきました、大会参加予定者、研究発表予定者、シンポジウム・実行委員会企画分科会登壇予定者、日本保育者養成教育学会理事会、福山市、様々な業務を担った名鉄観光、当日補助予定の保育関係者・学生、福山市立大学関係者の、温かいご協力とご配慮に感謝申し上げます。

感染拡大については、2020年末変異種の出現など3月よりも一層予断を許さない状況が続いており、要望の大きかったシンポジウムの代替措置については引き続き検討中です。そして、これからの時代の保育者に求められるものと、その保育者を支えていく社会システムの構築に向けて、日本保育者養成教育学会の目指すべき課題が今回与えられたように感じています。この度の経験を今後の保育者養成教育に活かすため、努力を続けていく所存です。

大会当日は、福山市長のウェルカムレターが参加者をお迎えする予定でありました。福山は「(前略)市外・県外から集まった保育への志ある学生たちが学ぶ保育者養成の拠点であり、西

日本一円に保育士・幼稚園教諭を数多く輩出してきました。」とあるように、福山での日本保育者養成教育学会第4回大会の開催を地元は誇りに思い、大歓迎しておりましたことをお伝えしておかねばなりません。

今回の事態に対し、多大なるご理解とご協力をいただきました全ての皆様に改めてお礼を申し上げ、第4回研究大会実行委員長からの報告とさせていただきます。ありがとうございました。